

第40回 商売繁盛・交通安全 祈願会

2 月 2 日 西尾コンベンションホール

三ヶ根観音代参

1 月26日（金）例年通り、三ヶ根山頂の三ヶ根観音に参詣し、今年の商売繁盛と交通安全を祈願致しました。厳かに護摩を焚き、音吐朗々と読経、お預かりした皆様の名前を高らかに名乗り、「商売繁盛・家内安全・身体健全・開運招福・職員並びに従業員一同無事息災」と当社代表者で一心に祈願させて頂きました。

天野卓社長新春放談

2024年、謹んで新年のお慶びを申し上げます。日頃は皆様に大変お世話になっております。お礼を申し上げます。

まずは、正月の能登半島地震の被災地及び関係者の皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

振り返りますと、2020年 1 月には従来の形で第36回祈願会が開催できましたが、コロナ禍で形を変えて今年も代参にさせて頂きました。今後は皆様からのご意見、ご要望を聞きながら進めて参ります。

年末からダイハツの安全性試験の不正行為による工場停止の影響が少なからず出ていたところ、今度は豊田自動織機の排ガス試験の不正行為が明るみに出て、関連の工場の操業停止が続きます。当社も 1 月、2 月と生産調整日を設けます。しばらくご迷惑をおかけいたしますが何卒、ご理解・ご協力の程よろしくお願い致します。

ここで、過去数年のア

ルミスクラップの輸出実績をご覧下さい。財務省の貿易統計によるとアルミ缶以外のアルミスクラップの輸出量は、

2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
21.4万トン	29.9万トン	36.6万トン	39.9万トン

と 5 年連続で増加を続け、円安の後押しもあり、5 年前から約 4 倍の数量、月に 3 万トンペースとなっています。リサイクル社会の維持に向けて逆流となりました。その中ではありますが、世間のリサイクルの流れを追い風に、国内でのアルミ循環をいかに構築するかが皆様を含めた我々の課題となります。

政府の方針は「過去30年に渡って繰り広げられて来たコストカット型経済から脱却して、ソフトインフレ、賃金アップから景気上昇を見込む」ですが、株価の押し上げだけで対応できるのかは疑問です。

今年もアルミリサイクルに貢献する為、皆様と力を合わせて生産量をキープしたいと思い、原料ヤードの拡張・整備を行って参りますのでご協力をよろしくお願い致します。



代参ビデオ上映

特別講演**リサイクルビジネスを取り巻くリスク環境
「どうする ニッポン？」**

講師 阪和興業株式会社 執行役員 白澤 省二氏



昨今、アジア諸国の状況が著しく変化している。人口でいえば2000年、中国は12.6億人、ASEANは5億人だったのが2023年には中国は15億人、ASEANは6.7億人に増加している。一方で日本は2000年は1.3億人だったのが2023年には1.2億人に減少している。GDPに注目してみても中国は2000年から22年間で1.2兆ドルから6.2兆ドルと凄まじい成長を遂げているのに対し、日本は2000年4.9兆ドルから2022年4.2兆ドルと勢いが無くなってきている。最新のニュースでは株価がバブル時代以降の最高値という事だが実感としてはあまり感じられない。

2022年、世界二輪生産台数は約5800万台、内アジア生産は約3500万台と、世界の6割をアジアで生産

し、世界の7割をアジアで実需している。特にインド、中国、インドネシア等、アジア市場に勢いがある。

対し、かつてはASEANで断トツの存在であった日本は、アジアでの立ち位置の変化がみられる。例えば2000年アルミ二次合金生産500トン/月だったマレーシアの小規模メーカー（Yechiu社）が、中国進出後、一気に事業拡大し2023年は10万トン/月とアルミ二次合金生産量が世界No.1になっている会社もある事から短時間で急成長をみせるASEANの力を感じる。

海外との取引は大きなビジネスチャンスになると同時にリスクも伴う。国によって貿易、環境、安全保障、規制ルールなどマチマチで、鉱物、スクラップ輸出入の規制、制限、関税等、突然通達する国もある。特に日本は資源をほぼすべて海外から輸入しているのでリスクには敏感にならざるを得ない。政治リスクもある。米中対立やロシア・ウクライナ問題、イスラエルの紛争、面白い所ではアメリカ大統領選など。ロシアがウクライナに侵攻する以前はロシアは石炭、石油、ガス、鉱物資源など豊富な資源をヨーロッパを中心に世界に輸出。アルミ地金世界シェア5%、日本は以前は約20%も輸入していた。スポンジチタンは世界シェア約10%だったが侵攻後は世界でロシア外しによるサプライチェーンの変更が行われた。日本にとって政治、産業、観光等、アメリカはそうだが、中



白澤セミナー

国も大きな国の1つだ。ビジネス競争リスクとして、中国のメーカーは世界に製造拠点を増加させている。それにより、アルミスクラップをはじめ、銅、ニッケル、EV電池等強烈な競争に発展する。中国がマーケットを支配するリスクは当然ある。最近では、地震等自然災害によるものもあるが、今年からの問題として2024年問題による物流リスクがある。簡単にいえば、運送業の労働環境、労働時間の見直しなのだが、それにより国内陸送コストは確実に上昇するという事で、陸送されるすべての品物がまた値上げするかもしれない。始まったばかりなので今後どういう動きになるかわからないが、サプライチェーンの見直しが必要なのかもしれない。

地球環境問題として、世界でCO2削減の取り組みが行われている。自動車産業もCO2削減の為、ガソリン車からハイブリッド車そしてCO2を排出しないEV車へと移行していくと思う。日本でも2035年までには新車販売をすべて電動車にする方針を打ち出している。自動車であればエンジンからモーター、ガソリンから電気と変化し、外観もそうだが、自動運転など大きな変化がみれるのはすぐかもしれない。CO2削減は自動車だけではなく大きな所でいえば火力発電所などがある。石炭を使って電気を作る火力発電所は、CO2が発生する。そこで新エネルギーとしてCO2が発生しない（カーボンニュートラル）バイオマス燃料などがある。

原料は主にヤシの木や実など植物から生まれた再生可能な有機性資源で将来的に石炭、石油に変わるエネ

ルギーの1つになるかもしれない。

地震などの天災や戦争、未知のウイルス、企業不正問題など、普通でないことが起きる最近だった。日本と海外と両睨みで判断しつつ、大胆な想定も必要なのかもしれない。
(文責 松川 剛士)



大 懇 親 会

ホールAでのセミナーを終え、会場をホールBに移し、セミナー講師をお願いした白澤様の乾杯のご発声で大懇親会をスタートしました。

今回は第40回の記念の回となりましたので、お隣り安城市の芸妓組合よりお姉様方をお招きし、新春に相応しい演目の踊りでオープニングを飾って頂きました。

昨年とは違い、アクリル板もはずされ、テーブルを移動しながら歓談に花が咲きました。

最後にアルパートジャパンの辻村元秀社長の中締めのご挨拶で、名残りを惜しみながら散会しました。



大
懇
親
会

社内勉強会

昨年に引き続き、1月26日に令和6年度第1回社内勉強会を行いました。

岡田専務より、SDGsへの取り組み、アルミスクラップの種類と特徴、円安の影響、地政学リスクの高まりと広範囲に渡る講義に続き、永田部長よりリサイクルの必要性和AC材・AD材の規格と特徴の説明を聞きました。併せて環境対策の重要性も学びました。

最後に鈴木部長より「顧客から見るアスカインゴット」の話を聞き、100社を超えるアスカ材の愛用者の要望に応える為に今後も購買・生産・販売の連携強化の重要性を再認識しました。



社内情報

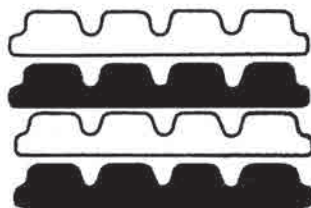
- ◎「商売繁盛・交通安全」祈願会は盛大に開催できました。講師の白澤様ありがとうございました。
- ◎翌日開催のアスカ会新春コンペの結果は以下の通り
 優勝 松島 康裕氏（松島金属）
 準優勝 東明穂太郎氏（東栄商店）【B G賞】
 第3位 古川 竜寿氏（協同コアトレード）
 B B賞 井元 啓太氏（阪和興業）
- ◎皆様おめでとうございました。

編集後記

- 2月22日に東京株式市場で日経平均株価が3万9千円を超え、1989年のバブル期の記録を34年ぶりに更新しました。
- 実体経済とマネー経済のかい離がどう埋まっていくのか、どう埋めていくのか。
- ロシア・ウクライナの戦いがついに3年目を迎えてしまいました。イスラエルとパレスチナの問題も終わりが見えません。

アルミ缶リサイクルング 鋳造用アルミニウム合金地金

アルミニウムそのものでは強さ、加工性などの点で不十分で、銅、シリコン、マグネシウム、亜鉛、鉄、マンガン、ニッケル等を用途に応じて添加合金しますと、非常に優れた強さ、鋳造し易さ、加工し易さ、耐熱性などが得られます。添加金属は非常に微量の場合もあり、そのため厳重な品質管理が要求されます。当社では発光分光分析装置を使用して、迅速・正確な品質管理の下で非常に優れたアルミニウム合金を作り、日本の産業の発展に寄与しています。



ISO 9001 認証取得 (KHK-ISO CENTER)

アスカ工業株式会社

〒444-0303

愛知県西尾市中畑町卯新田上28

TEL <0563> 77-0500(代)

FAX <0563> 77-0501

<http://www.al-asuka.jp/>